

資料 - 2 補足説明資料

異常湧水に対する危機管理の考え方

木曾川水系の特徴

- ・我が国最大規模のゼロメートル地帯を抱えている。
- ・中京圏の重要な水源を構成している。

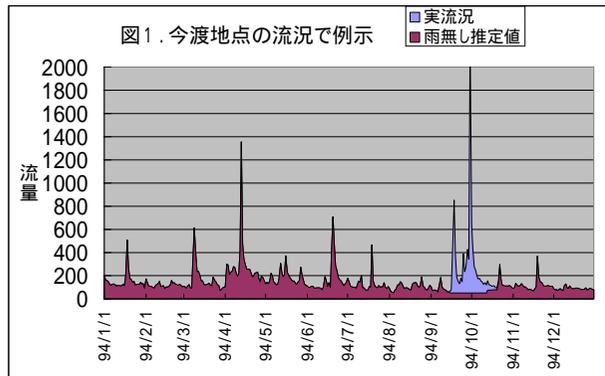
	整備計画目標	30年間の 遭遇確率 ¹	計画規模を超える水象 現象が発生すると高ま るリスク	危機管理想定	
治水	戦後60年間の最大	40%	・氾濫被害	スーパー伊勢湾台風 中心気圧910hpa ² で木曾三川に最大の被害をもたらすコースの台風及び 1/1000確率降雨による洪水を想定	
				濃尾平野の海拔ゼロメートル地帯では「東海ネーデルラ ンド高潮・洪水地域協議会」において、行政や施設管理 者等の関係機関が協働し、災害時の危機管理行動計画 を策定し、対応の充実を図る。(p.3-21) など	
利水	近年20年の2番目	96%	・河川環境の悪化 ・取水障害 ・地盤沈下	平成6年湧水 近年20年の1番目を想定(遭遇確率78%)	仮に、平成6年の湧 水を緩和した台風起 因の降雨がなかつ たら…
				異常湧水による甚大な湧水被害の最 小化を図るため、既存の水資源開発 施設や木曾川水系連絡導水路等を最 大限に活用する水系全体の総合運用 について、関係機関と調整し、その実 施に努める。(p.3-24) など	

1 遭遇確率とはn年間にT年確率事象が起こる確率(P)。 $P = 1 - (1 - 1/T)^n$
 ここで n は整備計画対象期間の30年間とした。

2 中心気圧910hpaは上陸時の中心気圧が過去最も低かった1934年の室戸台風。

異常渇水に対する危機管理の考え方

平成6年の渇水を緩和した台風起因の降雨がなかった場合の被害想定(試算)



試算条件

9月中下旬の降雨による増加流況を除いて(図1. に例示) 供給可能量を試算し、需要量(H27フルプラン需要)に対する充足を試算した。節水率15%以上となる期間を取水障害の可能性の期間と仮定した。

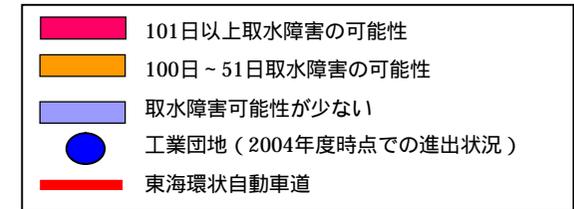
水資源供給施設および供給の運用方法

「徳山ダム・木曾川水系連絡導水路等がない場合」

牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、長良川河口堰による現行運用。

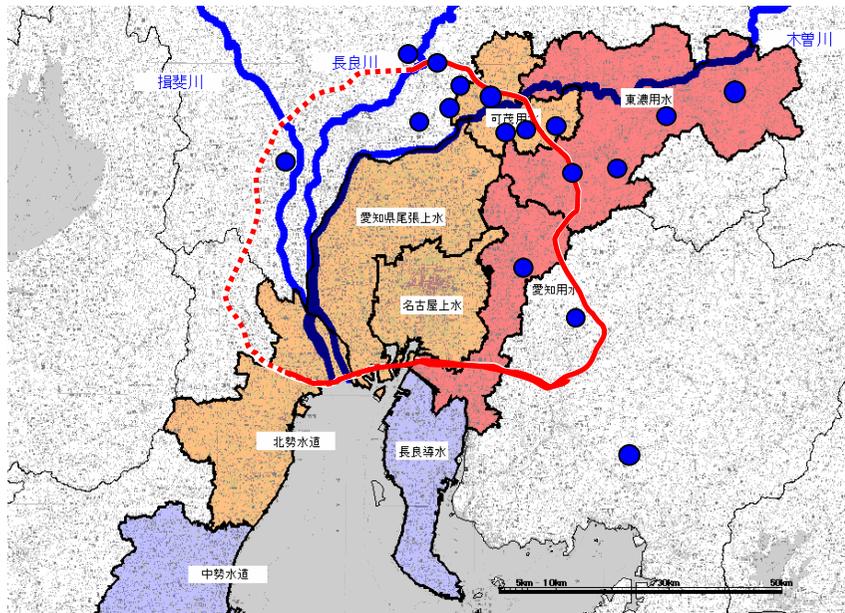
「徳山ダム・木曾川水系連絡導水路等がある場合」

牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、長良川河口堰、新丸山ダム、徳山ダム・木曾川水系連絡導水路による水系総合運用。



試算結果

徳山ダム・木曾川水系連絡導水路等がない場合



徳山ダム・木曾川水系連絡導水路等がある場合

